

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	みずなしの丘
(ユニット名)	ひだまり
所在地 (県・市町村名)	宮城県気仙沼市赤岩水梨子97-55
記入者名 (管理者)	伊藤 久美子
記入日	平成 19 年 8 月 3 日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念をもとに、ホームに合うよう独自に作り上げた理念である。誰もが解りやすく見やすい場所に掲示しているが、一年に一回以上の見直しという徹底していない。</p> <p>○</p>	<p>地域密着型サービスとして、現状にあった理念の見直しということで、よりよい地域連携が図かれるような理念に見直しを行きたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々の支援の中で、一人一人に機会ある度に、理念を交えながらの介護の仕方を話すようにしている。職員も理念のもと利用者さんの尊厳については十分認識して対応している。</p>	<p>今後とも理念を具体的なケアに結び付けていきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の来訪時や運営推進会議を通して理念を理解してもらえよう努力している。ホーム便りや地域の集まりやイベントへの参加・講習会等で事業所の実践を伝えるようにしている。ホームの想いを出来るだけ多くの皆さんに知ってもらえよう機会を作りたい。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>職員の通勤時や、出かける際には挨拶を交わしたりして、いつでも誰でも気軽に立ち寄ってもらえようようなホーム作りを心掛けている。防災や無断外泊時の支援も含め協力体制をお願いしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域交流を心掛け、保育所との交流や小学校の運動会、地域のイベントなどに積極的に参加しており、例年の行事となっている。参加することで多くの方に理解して頂けるようになった。行事への案内が届いたり、席やお弁当を用意して待っててくれたりと地域の方には本当に感謝している。これからも地域連携に努めて行きたい。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の推進協議会より認知症の勉強会の講師の依頼を受けた。地域の方に少しでも認知症のことを知ってもらいたいと思っている。ホームの機能が少しでも地域に貢献できるよう、今後ともすすんで取り組んでいきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域密着型サービス評価についての勉強会を行ったり、自己評価は職員全員で行っている。外部評価の結果は職員カンファレンスで報告し、回覧して周知徹底するようにし、改善項目についてはすぐに取り組むよう検討し対応している。また必ず家族や市町村へ報告し、開示している。		評価を自己のサービスの振り返りや気づきの機会として、よりよいサービスが提供できるよう質の向上を目指し取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今月開かれた運営推進会議においては地域密着型サービス評価についての勉強会を行った。その中で今年度の評価日の決定を報告し、自己評価に取り組んでいる旨報告した。結果については次回の会議の際に報告することを取り決めた。今後も運営推進会議の意義を尊重し、開かれた会議のもとホームの質の向上を目指し取り組んでいきたい。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスとなり、これまで以上に市長村との連携の必要性を認識している。単に報告だけでなく会議のもちかたについてのアドバイスなど市の助言等を聞きながらすすめたいと思っている。市の担当課の方との連携を強化し、運営推進会議を含め報告や助言をもらいながらホームの運営に取り組んでいきたい。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員しか解らないかも知れないので、制度の理解と活用を支援して行きたい。	○	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業について勉強会を開いたりして、職員の制度の理解、対象者がした場合の支援に活用して行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者さんの尊厳については十分認識している。虐待については行うことがないように職員間でも理解し、浸透している。今後も継続して行きたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては十分時間をとり、退居を含めた事業所としての対応可能な範囲について説明し、同意を得るようにしている。また家族からの要望、質問にも十分答えるようにして契約を交わしている。説明と同意のうえ今後とも支援して行きたい。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの言葉や態度からその思いを察するようになっている。意見などがあるときは、必ず納得して頂けるよう説明している。カンファレンスや連絡帳などで、意見の報告を職員間に浸透するようになっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時にはホームでの生活の様子や状況について出来るだけ話すようにしており、定期的に連絡票を送ったりしている。また年数回ホーム便りを発行し、来訪の困難なご家族には暮らしぶりが分かるよう知らせている。金銭管理の報告も必要な都度連絡し、明細書については年度末にお返ししている。	○ 金銭管理については毎月報告したい。今後とも信頼関係を築いて行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来訪時や折に触れ、気軽に何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。出された意見や要望についてはすぐに対応するようにしている。苦情担当職員、公的苦情対応窓口、第三者委員名を重要事項説明書にも明記している。要望があれば周知徹底しながら、運営に反映させて行きたい。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から運営者、管理者は職員の意見や要望を聞くようにしており、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。カンファレンスの際や日々の介護の現場の中でも聞くようにしている。今後も職員の意見・提案を大事にして行きたい。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	それぞれのユニットごとに、利用者さんの状態やペースに合わせたローテーションを組んでおり、その都度必要に応じて話し合い、柔軟な職員配置を行っている。こちらのユニットは中度～重度の方が入居されており、職員の人数も多く配置している。2ユニットでは入居者さんの状態や時間の流れも違うことから、職員の配置も変えて対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	それぞれのユニットではある程度固定の馴染みの職員が対応するようにしており、利用者、ご家族との信頼関係を築きながら介護・支援し、移動や離職時のダメージを最小限にしている。移動は少ないので現状を維持しながら、入居者さんの生活に配慮して行きたい。移動があった場合は運営推進会議などを通し報告したい。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修会には出来るだけ多くの職員に参加して欲しいと思っており、常勤、非常勤の別なく参加してもらっている。また研修参加者には報告書だけでなく、必ず毎月のカンファレンスの際に報告してもらい、共通理解に努めている。今後も出来るだけ多くの研修に参加させ、職員の育成に努めていきたい。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の事業の中の交換研修、交流研修を積極的に活用したり、市内の連絡協議会の研修に参加したりして、職員の質の向上やサービスの向上に励んでいる。今後も継続的に交流を持ち、相互の質の向上に努めていきたい。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	働きやすい職場作りや環境を整えたり、職員同士の人間関係を把握したりして、ストレスが溜まらないような工夫を心掛けている。日頃から職員との会話や態度等から、疲労やストレスについて気配り出来るよう配慮していきたい。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も毎日ホームへ来訪し短時間でも利用者や過ごし、職員の業務を見て把握している。職員の資格取得にも積極的に支援し、資格を活かせる労働環境づくりに努めている。機会ある度に資格取得を促し、本人への意識付けを行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用について相談があったときは、必ず本人へ面接して本人の思いや状態等を確認するようにしている。今後とも生活暦の把握からも家庭訪問を重視していきたい。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えた方には、十分に話を聞きながら在宅での生活のアドバイスをしたり、ホームのようすを説明したりして、認知症に対する不安が少しでも解消するように支援している。病状や段階、生活について解りやすく説明するようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの現状を話しながら、あらゆる選択肢を探せるよう助言している。他のサービスについても関係機関と連絡を取り、利用出来るよう支援している。他のサービスが必要な場合は関係機関と連絡を取り、相談者の気持ちになった対応を心掛けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して入居して頂くのが一番いいと思っている。本人、家族、関係者のどなたかには必ずホームのようすを見に来てもらい、スムーズな入居出来るよう協力をもらったり、職員が出向いたりして安心感をもった受け入れが出来るようにしている。家族の意向を聞きながら入居日については、面接時の職員が対応するように工夫している。安心して入居出来るように配慮して行きたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	教えて頂くことがたくさんあり、常に本人を尊重する気持ちで一方的に支援しようがないよう気をつけている。若い職員は野菜の切り方を教えて頂いたり、地域の行事食や慣わしなど教えて頂くことがたくさんある。お互いが協同しながら生活して行きたい。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	普段から家族とのコミュニケーションを図り、気軽に本人の様子を話したり、家族の思いを聞くようにしている。場合によっては家族も含めた支援が必要なケースもあり、状況を見ながら最善の支援が出来るよう協力や理解を頂いている。一緒に本人を支えあって行く関係作りを継続して行きたい。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思い・家族の思いが双方に出来るだけ伝わるように、連絡や調整、支え合いをしている。お互いの思いが理解しあえるように協力、支援して行きたい。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの美容院・店・銀行などに行ったり、気軽に友人や知人の訪問を受け入れたり、今までの関係が途切れることのないよう支援している。住み替えによるダメージがないアットホームな家にしたいと思っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん同士の関係がうまくいくように、それぞれの役割で調整したり、必要性を皆に知らせるようにしている。悩みや相談には個別に対応したり、間に入って関係性が保たれるよう見守り支援している。仲間はずれや孤立しない人間関係を築けるよう支援している。2ユニットあるので入居者さん同士の相性を考えた構成にしたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院して退居した方の、今後の相談を受けるような時があり支援している。相談があればいつでも対応して行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や支援を通して、希望・意向を聞いたり気づいたりするようにしている。それぞれの状態で意思表示が困難な方もいるが出来るだけくみ取りたいと思っている。こちらのユニットは言葉だけでなく、あらゆる手段をとりながらコミュニケーションを大切にし、気持ちや思いを聞くようにしている。		コミュニケーション技術を向上させたりして、意向の把握に努めて行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実調の際や、家族の面会の折に触れ、生活暦の情報収集に努めケアに活かしたいと思っている。生活を知ることによってケアに活かせることが多いので、意味と重要性を家族に伝え問題や支援の参考にして行きたい。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録の状況を十分に把握しながら情報の共有に努め、それぞれに合った支援を考え行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を反映させるプランにしたいと思っている。職員にはアセスメントシートを用いた書き込みをもらい、カンファレンス時の意見交換やモニタリング等皆がかかわるケアプラン作りをしている。		皆がたずさわって、ひとつのケアプランとしたい。アセスメントシートの活用などの勉強会を行い、現状にあった使い方などを考えて行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度のケアプランの見直し、変化があるときは随時の見直しは行っているが、月に1度ケアプランについての利用者や家族の意向を確認しているかという点で出ていない。	○	月に一度ケアプランについて意向を確認しながら作成して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にて食事量、排泄、バイタル、日々の生活の様子、気づき、連絡事項を記録している。また、連絡帳にて職員全員で情報の共有化を徹底しており、見たら必ずサインか印を押すようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じて、通院介助や送迎、外出支援など臨機応変に対応している。今後も要望や状況に合わせて対応して行きたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中で暮らし続けられるように、警察や消防、民生委員さん、地域推進協議会さん、ボランティア団体さんの演芸訪問などの協力のもと暮らしている。今後とも地域資源を十分に活用して行きたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用したり、以前は外出移送サービスを利用していた方がいた。使える資源があれば活用して行きたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には地域包括支援センター職員の方が参加している。周辺情報や支援に関する情報交換など協力関係を築いている。今後も関係の強化を図って行きたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの先生であったりと、本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診、通院は基本的には家族対応となっているが、状況に応じて職員が代行するようしており、利用契約時にその旨説明し、同意を得ている。これまで同様、本人家族の意向を聞きながら対応して行きたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		状況については常に家族と連絡を取り合い、このホームで出来ることの見極めをしながら今後もすすめていきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重し、利用者さんの誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。個人情報を取り扱う上からも、十分に配慮した支援を心掛けている。名前の呼び方については本人が一番理解出来る呼び方で呼んでおり、家族の方にも理解頂いている。認知の状態や生活暦などから対応しており、今後も十分に配慮したものにして行きたい。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者さんに合わせて声掛けしたり、本人の表情などで判断し、職員任せの決定にならないように気をつけている。選ぶ楽しさ、自分で決める満足感を支えて行きたい。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の暮らしぶり、生活リズム、好きなこと、嫌いなことなど色々な面からその方を知り、本人らしく楽しく過ごせるように支援している。個性や生活暦などその方がその方らしく生活出来るよう、見守りながら支援して行きたい。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が希望する支援が出来るよう努めている。前からの馴染みの店でのカットや毛染め、洋服選びなど個人の希望を尊重している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の出来ることに合わせて協力しながら一緒に行っている。ホームの畑で育てた野菜と一緒に収穫したり、その野菜を使った食事を楽しんだりしている。片付けについても積極的に協力して頂いている。皆で作ったものを収穫する喜び、一緒に食する喜びを今後も続けて行きたい。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を把握しながら対応している。一人で管理するのが難しい方が多いが、不満にならないように時間を決めたり量を決めたりして支援している。嗜好品を取り入れることにより、食事制限のある方など他者に迷惑がかからないような配慮をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握し、夜間も出来るだけトイレ誘導やポータブルトイレを使用するようにしている。排尿回数、便意の確認をしており、安易な紙オムツ使用はしていない。使用する際はご家族に説明し、状況が改善されればパンツに戻すよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行える。一人一人の希望に合わせた入浴支援を行っており回数、時間等体調を見ながら支援したり、状態に合わせた介助を行っている。現在は夜間浴の希望者はいないが希望があれば対応したい。常に柔軟に対応して行きたい。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を多く取り入れるようにし、夜の安眠につなげている。一人一人の睡眠状況や、混乱時の対応など睡眠が確保されるよう支援している。生活リズムの把握や体調などを考慮した支援を行って行きたい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫であったり、絵画であったり自分の得意なことで活躍して頂いている。ここでの必要性、大切な人であることを伝え、仕事や活動の後には必ず感謝の言葉で労をねぎらっている。本人のやりがいやいつまでも残し続けられるよう支援したい。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と同意のうえで、個人でお金を持っている方もいる。一概に事務所で管理するのではなく、一人一人の力に応じて支援するようにしている。妄想につながることも多いので、慎重に取り扱っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブなど戸外に外出する機会を多く持ち閉じこまらないケアに努めている。皆さんの希望を聞いたり、季節感を取り入れたり、情報収集したりして気分転換を図りながら行っている。外での開放感や皆で出かける楽しさを伝えて行きたい。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と相談したり、職員間で話し合い検討したりして、対応出来る範囲で支援している。今後もどういった支援が出来るか検討しながら対応したい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い、個別の便りなど自由にやり取りが出来るよう支援している。電話も意向があればかけて頂いているし、電話にも出てもらっている。娘さんとのはがきのやり取りを楽しみにしている方もいる。こちらからも本人の状況が分かるように返事を書いたり、電話で伝えたりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会、外出、外泊などいつでも気軽に来て頂き、出かけて頂いている。居心地よく過ごして頂けるような雰囲気作りを気をつけている。いつでも笑顔で迎え入れたいと思っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおりしていない。職員が身体拘束をしないケアの大切さを認識しており実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は鍵をかけないケアを行ってきたが、時間帯によってや状況においては玄関に施錠しなければならない場合がある。人命に係わることも多く徘徊者や混乱時の対応など今後十分検討して行かなければならないと思う。	○	誰もが自由に家庭と同じように気軽に出入りできるGHの良さを残しながら、安全を確保し症状の緩和に努めながら普通に生活出来るようにするには大きな課題だと思っている。施錠は利用者さんの状況や違いで限定している。症状が緩和されれば戻し、日常化することなく常に対策を検討している。地域の協力を得ながら安心した暮らしを支援して行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で過ごし、全員の状況を把握して支援している。夜間はユニットに一人ずつ夜勤者を配置し、昼同様安心できる支援に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	医薬品や入浴、掃除用洗剤等は保管庫にて管理し、包丁は利用に応じて鍵つき調理台で管理している。利用者さん個人の持ち物で爪切りやはさみ、カッター等は状況や変化に応じて対応するようにしている。一律に取り上げたり、管理することのないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態から常に危険を予測し、未然に事故を防止できるよう日々の介護に当たっている。職員間の気づきや連携、申し送りなどを徹底し、ひやりはつとの活用や事故が起きた場合は事故報告の中で二度と起きないように皆で防止に向けた話し合いを行い今後の支援に取り組むようにしている。	○	気づいた時点で報告・連絡・相談を徹底し、すぐに対応できるよう取り組む。申し送り時やカンファレンスの時に話題を提供し事故防止に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時に対応出来るよう年1回は救命講習を受けるなどして、職員の意識、技術の向上を目指している。緊急対応マニュアル、緊急連絡網を整備している。継続的に行うなどして緊急時の対応に備えたい。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は総合避難訓練を行い、内1回は夜間想定避難訓練を行っている。消防署の協力のもと地域の方にも参加をお願いし緊急時の避難に備えている。地震や火災のミニ避難訓練も年数回行っている。運営推進会議や地域の皆さんの協力のもと、今後とも地域連携に努めていきたい。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては状況の変化の都度、説明し同意を得ている。状況について丁寧に説明することによって理解を頂いている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から常に一人一人の変化に気をつけ早期発見、対応するようにしている。小さなことでもいつもと違うことや食事量、体温、バイタル、水分量、排泄回数などあらゆることに気配りし、職員全体で共有し早めの受診につなげている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をファイルにて管理し、職員は内容を把握し、服薬の在庫や病院への連絡も役割分担している。服薬時は本人へ手渡し又は介助したりし、確実な服薬に努めている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	安に下剤に頼るのではなく、日中の活動を多く取り入れるなどして、自然排便を図るよう支援している。それぞれの排便サイクルを把握し、下剤によるコントロールが必要な方については主治医と相談しながら使用量の適正化を量り体に負担のないよう配慮している。また食事についても食物繊維や乳製品を多く取り入れた食事などで自然排便を試みている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせ声掛けや見守り、介助している。就寝前は義歯の洗浄を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を配置しており、バランスの良い季節感を取り入れた献立にしている。それぞれの状態に合わせた献立作成や助言をしており、職員は食事量の記録をチェックし、情報の共有をしている。残食がほとんどなく皆に喜ばれる献立作りをしている。利用者さん・職員・栄養士が協同しながら食べる楽しみを支援して行きたい。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを整備し、感染症の予防に努めている。利用者さん家族の同意を頂き、職員と共にほとんどの方がインフルエンザの予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルのもと調理器具、台所水回りの清潔・衛生に努め、まな板や布巾の漂白・冷蔵庫の点検・掃除、食材の管理等気をつけている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰にでも親しみやすく、気軽に訪れることが出来る玄関周りにしている。ホーム入り口からの植栽、プランターや中庭の花壇、散歩が楽しめる遊歩道にはベンチなどを整備している。ボランティアさんの協力支援も大きい。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な生活が出来るように見て、聞いて、感じられるような空間作りを心掛けている。海や畑が見える景色を眺めながら、居間兼食堂には入居者さんが作った刺し子やパッチワークが飾っており、活動を活かした工夫をしている。	家庭的な生活が楽しめるよう工夫し、食堂に居られないような方には、ほっとした居場所作りを考え支援して行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ちょっとした小上がりがあり、腰掛けておしゃべりしたり、昼寝をしたり自由にくつろげる場所になっている。冬にはこたつを置いてカルタなどを楽しんでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、家で使っている馴染みのものを用意して下さいと話し持って来て頂いている。個人個人に差があるが本人の状況も考えながら出来るだけ居心地の良い居室作りを支援している。ご家族に協力をもらいながら、本人が安心できる居室になるように支援して行きたい。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いや換気、温度には十分気をつけるようにしている。臭気がこもったり、暑さ寒さなど人によって感じ方が違うので一人ひとりに合わせた支援をするようにしている。換気や消臭に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの状態に合わせて廊下やトイレ、浴室、脱衣所の手摺りなどの見直しや、スロープの設置など、生活環境の安全と配慮に心掛けている。定期的に点検等を行い環境づくりに配慮したい。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「わかること・わからないこと」「できること・できないこと」シートからも個人個人の状態を把握し混乱や失敗を防ぎながら自立した生活が出来るよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの周りの自然環境を活かしながら、庭に花を植えたり、畑を作ったり、遊歩道を散歩したりして、楽しみのあるホーム作りをしている。今後も引き続き支援して行きたい。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

みずなしの丘は市街地から少し離れた、山間の高台にあります。ホームからの眺めが良く 気仙沼湾に浮かぶ大島を見るには最高のロケーションです。

自然豊かな環境を活かし、おいしい空気と畑や山間ならではの暮らしを楽しんで頂きたいと思っています。山間部での環境がマイナスにならないよう地域連携に努め地域の方々とのふれあいを重視し、地域に孤立することなくホームのもっているものを地域に還元できるように暮らして行きたいと思っています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	みずなしの丘
(ユニット名)	せせらぎ
所在地 (県・市町村名)	宮城県気仙沼市赤岩水梨子97-55
記入者名 (管理者)	伊藤 久美子
記入日	平成 19 年 7 月 28 日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念をもとに、ホームに合うよう独自に作り上げた理念である。誰もが解りやすく見やすい場所に掲示しているが、一年に一回以上の見直しという徹底していない。</p> <p>○</p>	<p>地域密着型サービスとして、現状にあった理念の見直しということで、よりよい地域連携が図かれるような理念に見直しを行きたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々の支援の中で、一人一人に機会ある度に、理念を交えながらの介護の仕方を話すようにしている。職員も理念のもと利用者さんの尊厳については十分認識して対応している。</p>	<p>今後とも理念を具体的なケアに結び付けていきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の来訪時や運営推進会議を通して理念を理解してもらえよう努力している。ホーム便りや地域の集まりやイベントへの参加・講習会等で事業所の実践を伝えるようにしている。ホームの想いを出来るだけ多くの皆さんに知ってもらえよう機会を作りたい。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>職員の通勤時や、出かける際には挨拶を交わしたりして、いつでも誰でも気軽に立ち寄ってもらえようようなホーム作りを心掛けている。防災や無断外泊時の支援も含め協力体制をお願いしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域交流を心掛け、保育所との交流や小学校の運動会、地域のイベントなどに積極的に参加しており、例年の行事となっている。参加することで多くの方に理解して頂けるようになった。行事への案内が届いたり、席やお弁当を用意して待っててくれたりと地域の方には本当に感謝している。これからも地域連携に努めて行きたい。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の推進協議会より認知症の勉強会の講師の依頼を受けた。地域の方に少しでも認知症のことを知ってもらいたいと思っている。ホームの機能が少しでも地域に貢献できるよう、今後ともすすんで取り組んでいきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域密着型サービス評価についての勉強会を行ったり、自己評価は職員全員で行っている。外部評価の結果は職員カンファレンスで報告し、回覧して周知徹底するようにし、改善項目についてはすぐに取り組むよう検討し対応している。また必ず家族や市町村へ報告し、開示している。		評価を自己のサービスの振り返りや気づきの機会として、よりよいサービスが提供できるよう質の向上を目指し取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今月開かれた運営推進会議においては地域密着型サービス評価についての勉強会を行った。その中で今年度の評価日の決定を報告し、自己評価に取り組んでいる旨報告した。結果については次回の会議の際に報告することを取り決めた。今後も運営推進会議の意義を尊重し、開かれた会議のもとホームの質の向上を目指し取り組んでいきたい。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスとなり、これまで以上に市長村との連携の必要性を認識している。単に報告だけでなく会議のもちかたについてのアドバイスなど市の助言等を聞きながらすすめたいと思っている。市の担当課の方との連携を強化し、運営推進会議を含め報告や助言をもらいながらホームの運営に取り組んでいきたい。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員しか解らないかも知れないので、制度の理解と活用を支援して行きたい。	○	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業について勉強会を開いたりして、職員の制度の理解、対象者がした場合の支援に活用して行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者さんの尊厳については十分認識している。虐待については行うことがないように職員間でも理解し、浸透している。今後も継続して行きたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては十分時間をとり、退居を含めた事業所としての対応可能な範囲について説明し、同意を得るようにしている。また家族からの要望、質問にも十分答えるようにして契約を交わしている。説明と同意のうえ今後とも支援して行きたい。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの言葉や態度からその思いを察するようにしている。意見などがあるときは、必ず納得して頂けるよう説明している。カンファレンスや連絡帳などで、意見の報告を職員間に浸透するようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時にはホームでの生活の様子や状況について出来るだけ話すようにしており、定期的に連絡票を送ったりしている。また年数回ホーム便りを発行し、来訪の困難なご家族には暮らしぶりが分かるよう知らせている。金銭管理の報告も必要な都度連絡し、明細書については年度末にお返ししている。	○ 金銭管理については毎月報告したい。今後とも信頼関係を築いて行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来訪時や折に触れ、気軽に何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。出された意見や要望についてはすぐに対応するようにしている。苦情担当職員、公的苦情対応窓口、第三者委員名を重要事項説明書にも明記している。要望があれば周知徹底しながら、運営に反映させて行きたい。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から運営者、管理者は職員の意見や要望を聞くようにしており、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。カンファレンスの際や日々の介護の現場の中でも聞くようにしている。今後も職員の意見・提案を大事にして行きたい。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	それぞれのユニットごとに、利用者さんの状態やペースに合わせたローテーションを組んでおり、その都度必要に応じて話し合い、柔軟な職員配置を行っている。こちらのユニットは軽度～中度の方が入居されている。2ユニットでは入居者さんの状態や時間の流れも違うことから、職員の配置も変えて対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	それぞれのユニットではある程度固定の馴染みの職員が対応するようにしており、利用者、ご家族との信頼関係を築きながら介護・支援し、移動や離職時のダメージを最小限にしている。移動は少ないので現状を維持しながら、入居者さんの生活に配慮して行きたい。移動があった場合は運営推進会議などを通し報告したい。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修会には出来るだけ多くの職員に参加して欲しいと思っており、常勤、非常勤の別なく参加してもらっている。また研修参加者には報告書だけでなく、必ず毎月のカンファレンスの際に報告してもらい、共通理解に努めている。今後も出来るだけ多くの研修に参加させ、職員の育成に努めて行きたい。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の事業の中の交換研修、交流研修を積極的に活用したり、市内の連絡協議会の研修に参加したりして、職員の質の向上やサービスの向上に励んでいる。今後も継続的に交流を持ち、相互の質の向上に努めて行きたい。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	働きやすい職場作りや環境を整えたり、職員同士の人間関係を把握したりして、ストレスが溜まらないような工夫を心掛けている。日頃から職員との会話や態度等から、疲労やストレスについて気配り出来るよう配慮して行きたい。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も毎日ホームへ来訪し短時間でも利用者で過ごしたり、職員の業務を見て把握している。職員の資格取得にも積極的に支援し、資格を活かせる労働環境づくりに努めている。機会ある度に資格取得を促し、本人への意識付けを行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用について相談があったときは、必ず本人へ面接して本人の思いや状態等を確認するようにしている。今後とも生活暦の把握からも家庭訪問を重視して行きたい。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えた方には、十分に話を聞きながら在宅での生活のアドバイスをしたり、ホームのようすを説明したりして、認知症に対する不安が少しでも解消するように支援している。病状や段階、生活について解りやすく説明するようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの現状を話しながら、あらゆる選択肢を探せるよう助言している。他のサービスについても関係機関と連絡を取り、利用出来るよう支援している。他のサービスが必要な場合は関係機関と連絡を取り、相談者の気持ちになった対応を心掛けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して入居して頂くのが一番いいと思っている。本人、家族、関係者のどなたかには必ずホームのようすを見に来てもらい、スムーズな入居出来るよう協力をもらったり、職員が出向いたりして安心感をもった受け入れが出来るようにしている。家族の意向を聞きながら入居日については、面接時の職員が対応するように工夫している。安心して入居出来るように配慮して行きたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	教えて頂くことがたくさんあり、常に本人を尊重する気持ちで一方的に支援するようなことがないよう気をつけている。若い職員は野菜の切り方を教えて頂いたり、地域の行事食や慣わしなど教えて頂くことがたくさんある。お互いが協同しながら生活して行きたい。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	普段から家族とのコミュニケーションを図り、気軽に本人の様子を話したり、家族の思いを聞くようにしている。場合によっては家族も含めた支援が必要なケースもあり、状況を見ながら最善の支援が出来るよう協力や理解を頂いている。一緒に本人を支えあって行く関係作りを継続して行きたい。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思い・家族の思いが双方に出来るだけ伝わるように、連絡や調整、支え合いをしている。お互いの思いが理解しあえるように協力、支援して行きたい。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの美容院・店・銀行などに行ったり、気軽に友人や知人の訪問を受け入れたり、今までの関係が途切れることのないよう支援している。住み替えによるダメージがないアットホームな家にしたいと思っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん同士の関係がうまくいくように、それぞれの役割で調整したり、必要性を皆に知らせるようにしている。悩みや相談には個別に対応したり、間に入って関係性が保たれるよう見守り支援している。仲間はずれや孤立しない人間関係を築けるよう支援している。2ユニットあるので入居者さん同士の相性を考えた構成にしたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院して退居した方の、今後の相談を受けるような時があり支援している。相談があればいつでも対応して行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や支援を通して、希望・意向を聞いたり気づいたりするようにしている。それぞれの状態で意思表示が困難な方もいるが出来るだけくみ取りたいと思っている。こちらのユニットは話せる方が多いので、普段から会話を大切にし気持ちや思いを聞くようにしている。		今後も会話の機会を多く持ち、意向の把握に努めて行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実調の際や、家族の面会の折に触れ、生活歴の情報収集に努めケアに活かしたいと思っている。生活を知ることによってケアに活かせることが多いので、意味と重要性を家族に伝え問題や支援の参考にして行きたい。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録の状況を十分に把握しながら情報の共有に努め、それぞれに合った支援を考え行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を反映させるプランにしたいと思っている。職員にはアセスメントシートを用いた書き込みをしてもらい、カンファレンス時の意見交換やモニタリング等皆がかかわるケアプラン作りをしている。		皆がたずさわって、ひとつのケアプランとしたい。アセスメントシートの活用などの勉強会を行い、現状にあった使い方などを考えて行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度のケアプランの見直し、変化があるときは随時の見直しは行っているが、月に1度ケアプランについての利用者や家族の意向を確認しているかという点で出ていない。	○	月に一度ケアプランについて意向を確認しながら作成して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にて食事量、排泄、バイタル、日々の生活の様子、気づき、連絡事項を記録している。また、連絡帳にて職員全員で情報の共有化を徹底しており、見たら必ずサインか印を押すようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じて、通院介助や送迎、外出支援など臨機応変に対応している。今後も要望や状況に合わせて対応して行きたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中で暮らし続けられるように、警察や消防、民生委員さん、地域推進協議会さん、ボランティア団体さんの演芸訪問などの協力のもと暮らしている。今後とも地域資源を十分に活用して行きたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用したり、以前は外出移送サービスを利用していた方がいた。使える資源があれば活用して行きたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には地域包括支援センター職員の方が参加している。周辺情報や支援に関する情報交換など協力関係を築いている。今後も関係の強化を図って行きたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの先生であつたりと、本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診、通院は基本的には家族対応となっているが、状況に応じて職員が代行するようしており、利用契約時にその旨説明し、同意を得ている。これまで同様、本人家族の意向を聞きながら対応して行きたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		状況については常に家族と連絡を取り合い、このホームで出来ることの見極めをしながら今後もすすめていきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握し、夜間も出来るだけトイレ誘導やポータブルトイレを使用するようにしている。排尿回数、便意の確認をしており、安易な紙オムツ使用はしていない。使用する際はご家族に説明し、状況が改善されればパンツに戻すよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行える。一人一人の希望に合わせた入浴支援を行っており回数、時間等体調を見ながら支援したり、状態に合わせた介助を行っている。現在は夜間浴の希望者はいないが希望があれば対応したい。常に柔軟に対応して行きたい。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を多く取り入れるようにし、夜の安眠につなげている。一人一人の睡眠状況や、混乱時の対応など睡眠が確保されるよう支援している。生活リズムの把握や体調などを考慮した支援を行って行きたい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫であったり、絵画であったり自分の得意なことで活躍して頂いている。ここでの必要性、大切な人であることを伝え、仕事や活動の後には必ず感謝の言葉で労をねぎらっている。本人のやりがいやいつまでも残し続けられるよう支援したい。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と同意のうえで、個人でお金を持っている方もいる。一概に事務所で管理するのではなく、一人一人の力に応じて支援するようにしている。妄想につながることも多いので、慎重に取り扱っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブなど戸外に外出する機会を多く持ち閉じこまらないケアに努めている。皆さんの希望を聞いたり、季節感を取り入れたり、情報収集したりして気分転換を図りながら行っている。外での開放感や皆で出かける楽しさを伝えて行きたい。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と相談したり、職員間で話し合い検討したりして、対応出来る範囲で支援している。今後もどういった支援が出来るか検討しながら対応したい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い、個別の便りなど自由にやり取りが出来るよう支援している。電話も意向があればかけて頂いているし、電話にも出てもらっている。こちらからも本人の状況が分かるように返事を書いたり、電話で伝えたりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会、外出、外泊などいつでも気軽に来て頂き、出かけて頂いている。居心地よく過ごして頂けるような雰囲気作りを気をつけている。いつでも笑顔で迎え入れたいと思っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおりしていない。職員が身体拘束をしないケアの大切さを認識しており実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は鍵をかけないケアを行ってきたが、時間帯によってや状況においては玄関に施錠しなければならない場合がある。人命に係わることも多く徘徊者や混乱時の対応など今後十分検討して行かなければならないと思う。	○	誰もが自由に家庭と同じように気軽に出入りできるGHの良さを残しながら、安全を確保し症状の緩和に努めながら普通に生活出来るようにするには大きな課題だと思っている。施錠は利用者さんの状況や違いで限定している。症状が緩和されれば戻し、日常化することなく常に対策を検討している。地域の協力を得ながら安心した暮らしを支援して行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で過ごし、全員の状況を把握して支援している。夜間はユニットに一人ずつ夜勤者を配置し、昼同様安心できる支援に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	医薬品や入浴、掃除用洗剤等は保管庫にて管理し、包丁は利用に応じて鍵つき調理台で管理している。利用者さん個人の持ち物で爪切りやはさみ、カッター等は状況や変化に応じて対応するようにしている。一律に取り上げたり、管理することのないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態から常に危険を予測し、未然に事故を防止できるよう日々の介護に当たっている。職員間の気づきや連携、申し送りなどを徹底し、ひやりはつとの活用や事故が起きた場合は事故報告の中で二度と起きないように皆で防止に向けた話し合いを行い今後の支援に取り組むようにしている。	○	気づいた時点で報告・連絡・相談を徹底し、すぐに対応できるよう取り組む。申し送り時やカンファレンスの時に話題を提供し事故防止に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時に対応出来るよう年1回は救命講習を受けるなどして、職員の意識、技術の向上を目指している。緊急対応マニュアル、緊急連絡網を整備している。継続的に行うなどして緊急時の対応に備えたい。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は総合避難訓練を行い、内1回は夜間想定避難訓練を行っている。消防署の協力のもと地域の方にも参加をお願いし緊急時の避難に備えている。地震や火災のミニ避難訓練も年数回行っている。運営推進会議や地域の皆さんの協力のもと、今後とも地域連携に努めていきたい。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては状況の変化の都度、説明し同意を得ている。状況について丁寧に説明することによって理解を頂いている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から常に一人一人の変化に気をつけ早期発見、対応するようにしている。小さなことでもいつもと違うことや食事量、体温、バイタル、水分量、排泄回数などあらゆることに気配りし、職員全体で共有し早めの受診につなげている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をファイルにて管理し、職員は内容を把握し、服薬の在庫や病院への連絡も役割分担している。服薬時は本人へ手渡し又は介助したりし、確実な服薬に努めている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	安に下剤に頼るのではなく、日中の活動を多く取り入れるなどして、自然排便を図るよう支援している。それぞれの排便サイクルを把握し、下剤によるコントロールが必要な方については主治医と相談しながら使用量の適正化を量り体に負担のないよう配慮している。また食事についても食物繊維や乳製品を多く取り入れた食事などで自然排便を試みている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせ声掛けや見守り、介助している。就寝前は義歯の洗浄を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を配置しており、バランスの良い季節感を取り入れた献立にしている。それぞれの状態に合わせた献立作成や助言をしており、職員は食事量の記録をチェックし、情報の共有をしている。残食がほとんどなく皆に喜ばれる献立作りをしている。利用者さん・職員・栄養士が協同しながら食べる楽しみを支援して行きたい。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを整備し、感染症の予防に努めている。利用者さん家族の同意を頂き、職員と共にほとんどの方がインフルエンザの予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルのもと調理器具、台所水回りの清潔・衛生に努め、まな板や布巾の漂白・冷蔵庫の点検・掃除、食材の管理等気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰にでも親しみやすく、気軽に訪れることが出来る玄関周りにしている。ホーム入り口からの植栽、プランターや中庭の花壇、散歩が楽しめる遊歩道にはベンチなどを整備している。ボランティアさんの協力支援も大きい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な生活が出来るように見て、聞いて、感じられるような空間作りを心掛けている。海や畑が見える景色を眺めながら、居間兼食堂には入居者さんが作った刺し子やパッチワークが飾っており、活動を活かした工夫をしている。		家庭的な生活が楽しめるよう工夫し、食堂に居られないような方には、ほっとした居場所作りを考え支援して行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ちょっとした小上がりがあり、腰掛けておしゃべりしたり、昼寝をしたり自由にくつろげる場所になっている。冬にはこたつを置いてカルタなどを楽しんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、家で使っている馴染みのものを用意して下さいと話して来て頂いている。個人個人に差があるが本人の状況も考えながら出来るだけ居心地の良い居室作りを支援している。ご家族に協力をもらいながら、本人が安心できる居室になるように支援して行きたい。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いや換気、温度には十分気をつけるようにしている。臭気がこもったり、暑さ寒さなど人によって感じ方が違うので一人ひとりに合わせた支援をするようにしている。換気や消臭に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの状態に合わせて廊下やトイレ、浴室、脱衣所の手摺りなどの見直しや、スロープの設置など、生活環境の安全と配慮に心掛けている。定期的に点検等を行い環境づくりに配慮したい。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「わかること・わからないこと」「できること・できないこと」シートからも個人個人の状態を把握し混乱や失敗を防ぎながら自立した生活が出来るよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの周りの自然環境を活かしながら、庭に花を植えたり、畑を作ったり、遊歩道を散歩したりして、楽しみのあるホーム作りをしている。今後も引き続き支援して行きたい。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

みずなしの丘は市街地から少し離れた、山間の高台にあります。ホームからの眺めが良く 気仙沼湾に浮かぶ大島を見るには最高のロケーションです。

自然豊かな環境を活かし、おいしい空気と畑や山間ならではの暮らしを楽しんで頂きたいと思っています。山間部での環境がマイナスにならないよう地域連携に努め地域の方々とのふれあいを重視し、地域に孤立することなくホームのもっているものを地域に還元できるように暮らして行きたいと思っています。